

第 25 回 コムズフェスティバル 市民企画分科会 実施報告

グループ名	高齢社会を生きる会
開催日時	2024年2月4日（日） 13:30～15:30
テーマ	老人パワーを生かそう！高齢者の働き方と社会参加
形式	第1部 ズーム講演 第2部 フォーラム
講師等	開会挨拶：樋口恵子さん（ズーム） 第1部 講師：石田路子さん（名古屋学芸大学看護学部客員教授） 第2部 パネリスト 浅木尚子さん 河上和子さん 前田勇次さん コーディネーター 篠崎英代 閉会挨拶：立川百恵
参加人数	女性 40名 男性 4名 合計 44名

〈内容〉

だれにも訪れる高齢期を心豊かに過ごすために、高齢者は社会とどう関わればよいのだろう。第1部は「高齢女性の働き方と社会参加 働く 暮らす 生きる」と題する、石田路子さんのズーム講演。その中で「高齢に比例して、働き方は job（収入を得る仕事）から work（生きていく・暮らしていくために必要な仕事）に移行していく」「人生100年時代、何度でも学び直し、新たな仕事や暮らしに活かす」「地域で暮らす高齢者のための生活支援に仕事やボランティアとして関わる」ことなどについて、グラフや図を用いてわかりやすく話された。

講演後、会場から「AIに仕事を代替される時代が来るのではないか」との質問があった。石田さんは「仕事が単純にAIに取って代わられるとは思えない。代わられていいのか、だれもが考え意見をもつべきだ」と強く言われた。

これからのコミュニティづくりについての質問には「自然発生的な集まりだけでなく、マネージメントすることにより、洗練されたグループに発展させていけるのではないか」と答えた。

第2部フォーラムでは、三人のパネリストが、それぞれの今そしてこれからの「社会との関わり方や生きがい」について思いを述べた。

浅木さんは「働くことに生きがいを感じている。今は介護の仕事をしているが、75歳くらいまでは働き続けたい」と話した。

河上さんは「昨年まで続けてきたケアマネジャーなどの経験をいかし、今後は健康に留意しながら、収入は少なくとも余裕のある働き方をしたい」と語った。

前田さんは退職後、資格を取ったり趣味を楽しんだり大忙し。中でも議員さんの応援を始めたことから「高齢者も政治に関心をもとう」との思いを発信した。

発表後、参加者からの質問についてパネリストに答えていただいた。



〈参加者の感想・アンケートより〉

- ・樋口先生の人と人が尊敬しあうことの大切さを学んだことのスピーチは良かった
- ・若い世代が高齢世代をどう見ているかは、大切なポイントであります。
- ・石田先生の「孤立しないで孤独を生きる」というのがよかった。自分モデル作りを頑張ろうと思いました。
- ・「人生 100 年 おもしろがってワクワク挑戦！！」は、とても心強いお言葉だったと思います。社会とのつながり、役割を持つことの大切さ、再認識しました。
- ・初めての参加で高齢でも仕事ができ社会的役に立てるのだろうか？と聞いていましたが、自分の意思でもう少しがんばっていかうと思いました。
- ・大変参考になり学べました。生涯現役（死ぬまで税金を払うこと）目指します。自分の人生を持って生きていくこと。
- ・自分の知らない事が一部知識として増えた。
- ・孤立しないで覚悟を持って毎日過ごす。
- ・これまでの知識をまとめる上でよかった。総論的なものとしていいと思う。ワークショップでないのが気軽に参加しやすく、はじめての友人にもさそいやすい。
- ・日頃、ぼんやり思っていたことをはっきり、言葉にしてもらって、すっきりしました。
- ・私はずっと専業主婦でした、のでこのようなお話を聞くことは新鮮でした。何かいろいろもっと関心を持っていきたいと思いました。多趣味の方がいてびっくりしました。
- ・“なりたい自分”を目指すのではなく、“いまここ”の自分を認めたいと思う様になりました。今日のフォーラムでますますその考えでいいのだと思えるようになりました。とても良い学びの機会をありがとうございました。
- ・樋口先生にお会いできるかと思っていましたが、残念。でも、遠路は無理だなあ！と分かります。石田先生の講義は大変参考になりました。地域でも活動の参考にしてゆきたいことばかりでした。ありがとうございました。
- ・それぞれの生き方、ありがとうございました。
- ・私の一老人パワーは、せつかく生かされているのだから、ちゃんと社会参加して生きていこうと、あらためて思います。小さなことでも、積み上げて生きていこうと思いました。皆さんの話がきけて、とても励まされました。今日参加できたことに感謝します。
- ・高齢期になって、どう社会とかかわって行くか 大切な問題だと思う。一人では生きて行けない。出来るだけ社会とかかわりを持ち、皆で協力し合わないと、だめだと思う。
- ・身近なテーマであり、パネラーの経験豊かな話が良かった。
- ・思った以上の結果—自分自身の為になった。嫁さんに離婚されない様 気を付け、死神の鎌に首を切られない様、貧乏神にとりつかれない様 気をつけましょう。
- ・マイクを通しての話が聞き取りにくく苦勞した。議論の内容は具体的でよかった。
- ・石田さんの講演もとてもわかりやすく、よかったです。「高齢社会をよくする女性の会」樋口さんの講演を楽しみにしていました。高齢になり働いていますが **JOB.WORK** と分ける働き方がある。お金にならないことも十分な働きだと言うこと、それが人の役に立つことで生きがいになること、それも働くことで大事です。とても良い企画でした。
- ・今年、70 歳になります。まだ仕事をしておりますがこれからの生き方を色々学ばせていただきました。ありがとうございました。
- ・石田さんの講演を聞いて、自分が今している事を肯定して頂いて、自信ができました。
- ・はじめての出席。今から勉強してゆきます。
- ・お隣の会場の声が大きくて、講演会場として、少し残念でした。

- ・これから生きていくために必要なスキルや考え方等を知ることができました。確実に進む老化、健康第一、心底同感です。見合う仕事と分相応な暮らしで無難なのが、なんだかんだ一番良いかな・・と思います。参加できて良かったです。ありがとうございました。
- ・石田先生のお話自体は分かりやすかったです。内容は、目新しさはなかったかなと思います。

〈まとめ〉

講師石田さんの調べによると、高齢者の有業率は増加傾向で、2021年には60代後半の2人に1人、70代前半の3人に1人が働いている。働き手不足と言われるおり、jobでも老人パワーは益々必要とされそう。しかし、パネリストが言われたように高齢者には「収入は少なくても、経験を生かした余裕のある働き方」が求められると思う。

仕事以外でも、趣味の教室や講座、ボランティア活動に参加することなどで人とつながりを持ち、心豊かに過ごすことができる。

人生100年時代は始まったばかりで、ロールモデルはまだない。新しいライフスタイルはそれぞれが創っていくもの。若い世代はそんな私たち高齢者の背中を見ているのだと言われると、背筋が伸びる。

今回の分科会で、様々なことを学んだが「高齢者の働きやすい職場」や「体に不自由を抱えた高齢者の社会参加」など、みんなで考えるべき課題は山積みである。でも、諦めないで知恵を出し合い、だれもが住みやすい社会にしていきたいものだ。

※この報告書は、当財団のホームページに掲載させていただきます